

【基本方針1】誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出（施策の方向Ⅰ 心の豊かさを目指して、Ⅱ 文化芸術をすべての市民に）												
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン	事業目的		R 7 計画時	R 7 実績	R 7 目的達成度、課題など	めざす姿	R 8 計画時
1		俳句入門教室	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	日常的に俳句に親しむきっかけとして、どこから・何から始めたらいのか手ほどきから、句会に参加できるまでを学び、俳句人口増加をめざす。 芭蕉生誕地であり俳人が多いとされる伊賀で、子どもの頃の宿題が大変であり、大人になっても苦手意識のある人も多い。苦手のままではなく、俳句は楽しいもの、続けてみたいという思いをもつ。	参加者数	60人	39人	定員20名としているが、各回平均10名程度で、初心者学びや句会には丁度良い人数である。 その中から、幾人かは市内の句会に参加し始めた。終了者の中から、献詠俳句児童生徒の部選者が誕生した。	継続	60人
							開催数	3回	3回			3回
							開催経費	50,000	31,000			50,000
							収入	2,000	1,000			2000
2		気楽に俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	俳句入門教室を修了したが、どここの句会にも参加できず、せっかく始めた俳句を作る機会としての句会とする。 また、コロナ過で様々な句会や俳句大会が中止され、句会の機会の無い人々に熟練、初心関係なく和気あいあいとした句会で俳句を楽しむ。	参加者数	40人	8人	広報配付時に、市内回覧を依頼し、市内各施設にチラシを配置しているがSNSでの情報発信も行う。	継続	40人
							開催数	2回	1回			2回
							開催経費	30,000	10,000			30,000
							収入	3,000	300			3000
3		研修・講師派遣事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 1-Ⅱ 2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	地域や学校などで、芭蕉さんのことや俳句作りの教室研修の講師について依頼があった場合に、講師の紹介及び派遣により、それぞれの研修の支援をする。	参加者数			地区や子どもたちのみでなく、一般を対象とした企業や団体からの要望に応じ派遣を行った。	継続	
							開催数		2か所			
							開催経費					
							収入					
4		続大人の寺小屋	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 4-Ⅰ 5-Ⅰ	史跡芭蕉翁生家で、芭蕉さんのお父さんが子どもたちに読み書きを教えていたとのに倣い短時間で継続性のある内容で行う。	参加者数	96人	102人	短時間で分かり易いと好評を得た。 顕彰会及び市が所蔵している芭蕉の真筆を読めるようになることを目的に始めた。今年度は、中部大学非常勤講師榎木宏成さんに、「伝去来筆奥のほそ道を読み解く」定員が毎回12名の8回実施した。参加できなかった方へ資料の提供をした。	継続	108人
							開催数	8回	8回			9回
							開催経費	100,000	80,000			128,000
							収入	1,000	300			1000円
5		基礎編大人の寺小屋	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 4-Ⅰ 5-Ⅰ	崩し字の基礎を学ぶ 江戸時代の書物に慣れるため、崩し字の基礎(仮名)について少しずつ学び関心を深める。	参加者数				新規(再)	60人
							開催数					5回
							開催経費					80000円
							収入					1000円
6		芭蕉講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 5-Ⅰ	芭蕉、俳句、俳諧の研究者や俳人の講演により俳文学の振興等を図る。	参加者数	100人	64人	中部大学 岡本 聡さんが「芭蕉と藤堂家」として講演した。芭蕉や俳文学の研究家の講演は難しいという印象を与え、俳人の講演であると、若干参加者が増える。	継続	100
							開催数	1回	1回			1
							開催経費	150,000	102,900			150,000
							収入	5,000	6,000			5000
7		蕉門大学フォトゼミナール	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 7-Ⅱ	主として取り組んでいるのが風景写真である。受講生同志の情報共有により、作品に磨きをかけている。	参加者数	15人	15人	例会に於いては撮影、カメラの扱い方など活発に話し合っている。	継続	15人
							開催数	12回	12回			12回
							開催経費	-				
							収入	180,000				
8		蕉門大学絵画教室	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ	前任の講師の紹介により今年度より講師が交代する。絵を描くことで”生きがい”を見つけてもらえればと期待している。	参加者数	10人	4人	講師の交代と新規生徒により、先ず、年度の合同作品展に向けて制作している。制作点数6点を目標としている。	継続	10人
							開催数	12回	12回			12回
							開催経費					
							収入					
9		蕉門大学俳句教室	公益財団法人 前田教育会		5-Ⅰ	2002年(平成4年)から行っている事業である。俳句に親しむこと、俳句人口を増やすことに期待また目的としている。初心者を対象としている。	参加者数	10人	5人	6月に倒壊ホトギス俳句大会が伊賀で行われた。当教室の受講生の句が選ばれた。張り合いが生まれる。	継続	10人
							開催数	12回	12回			12回
							開催経費					
							収入					
10		蕉門大学講座ピアノレスナーグループ「ボンミスト」第10回事業アンサンブルの楽しみ Vol.3～ピアノトリオ～	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 2-Ⅱ	運営委員の洋楽担当を中心にピアノスグループ「ボンミスト」を編成。ピアノトリオをコンサート形式で演奏し、協調しながら曲を作り上げていく。	参加者数	200人	12人	小学生から一般の方まで幅広く参加者(出演者)が集まった。	継続	
							開催数		(出演者)			
							開催経費					
							収入					

令和7年度伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人芭蕉翁顕彰会、前田教育会、伊賀文化産業協会)

(令和8年7月現在)

11	新	赤まんまコンサートVOL.13～伊賀の校歌を紡いだ音楽家たち～	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 2-Ⅱ	廃校になった伊賀地方の学校の校歌を作った作曲家、作詞家にスポットを当て、その方々が校歌だけではなく沢山の曲を世に残していることを地域住民の方々に知ってもらうことを目的とする。	参加者数					400人
							開催数					1回
							開催経費					
							収入					

【基本方針2】子どもたちが文化芸術を体感できる機会の拡充（施策の方向Ⅰ 子どもたちの心を豊かに、Ⅱ 成長に即した文化芸術の提供）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン	事業目的		R7計画時	R7実績	R7目的達成度、課題など	めざす姿	R8計画時
12		こども句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	俳句を楽しく学び、俳句が好きな子を増やす。 将来的には、こども句会を定期的(月1回)に開催し、その句会には、都合のつく子が自由に出入りできるようにする。	参加者数	40人	7人	自宅や学校で作った俳句を持ち寄り自由に句会を行う。その後、参加者で互選・表彰、芭蕉さん人生すごろくで芭蕉さんを学ぶ。 普段の休日にこどもを集めるのが難しい。	見直し、次年度は中止	
							開催数	2回	1回			
							開催経費	30,000	1,000			
							収入		0			
13		夏休みこども俳句指導	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	長年「俳句の日」に“こども俳句教室”を行い、芭蕉翁献詠俳句の事業として夏休みの宿題になっている「献詠俳句」の指導を行っていたが、当日の成果発表もないため、複数日の個別指導の機会をつくる。 都合のよい日、よい時間に、個別に指導を受けることができる。	参加者数	60人	43人	夏休みの3日間、午後1時～4時まで、芭蕉翁献詠俳句生徒児童の部選者15名のうち2名ずつが養虫庵に待機して、持参した俳句の添削や、個別指導を行う。 付き添いの大人も一緒に学べる。 伊賀市及び近隣市町村の小学生から高校生までに案内をしている。	継続 (回数を増やす)	
							開催数	3回	3回			
							開催経費	50,000	31,000			
							収入		0			
14		こども俳句合わせ(バトルバナナ)	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		2-Ⅰ 2-Ⅱ 5-Ⅰ	芭蕉翁が「貝おほひ」を上野天満宮へ奉納したことに肖り実施。 こどもたちが俳句を楽しむために、一定のゲーム性を持たせる。	参加者数	36人	28人	小学生2人1組による俳句合戦。1戦は巴戦または対決2回戦は巴戦、3回戦の決勝は対戦の形式。判者は専門家の選者他会長、副市長。参加者、応援者、判者、全員で楽しめた。 俳句は楽しいの感想を得て一定の目的は達成した。	継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	100,000	63,300			
							収入		0			
15		伊賀上野しょうもん亭	公益財団法人 前田教育会		2-Ⅱ 7-Ⅰ	世話人の交代でその弟子が行うようになった。蕉門ホール閉鎖により開催会場が講座室に変更したことによって、嘶家と客席とはより近づいた。	参加者数	280人	200人	毎回50名前後の参加あり	継続	240人
							開催数	4回	4回			4回
							開催経費					(1回70人)
							収入					
16		こども蕉門大学	公益財団法人 前田教育会		2-Ⅰ 2-Ⅱ	次世代に伝承すべきこと、また感性、自由な発想を伸ばす事につながる体験を実施	参加者数		くみひも 8名	ピアノを遊ぼう！学ぼう！楽しもう！においては、オリンピック開催年につき、世界の国歌を聴いたり、歌ったりした。	継続	計40名
							開催数		はいく 3名			各教室1回
							開催経費		ピアノ 21名			
							収入		映画 16名			

【基本方針3】担い手や後継者を育成し次世代へとつなぐ（施策の方向Ⅰ 人づくりとまちづくり、Ⅱ 多様な人材活用による文化芸術の振興）

No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン	事業目的		R7計画時	R7実績	R7目的達成度、課題など	めざす姿	R8計画時
17		蕉門大学陶芸教室	公益財団法人 前田教育会		1-Ⅰ 3-Ⅰ 7-Ⅰ	伊賀焼きを身近に感じつつ、普段使いの小皿等から始める。中級上級と進に従って、市展県展等への出展を勧める。	参加者数	10人	5人	伊賀焼(茶陶)に興味のある人が県外から参加	継続	7人
							開催数	9回	9回			9回
							開催経費					
							収入	13,500円	45,000円			
18		中学のキャリア体験・高校生の郷土学習の受け入れ協力	公益財団法人伊賀文化産業協会		3-Ⅰ 5-Ⅰ 7-Ⅰ	中学生のキャリア体験学習、高校生の伊賀の歴史・文化を学ぶフィールドワークに協力し、若い世代の郷土への理解に促進に期待。	参加者数		30人	学校の養成に応える形の事業であるので達成度は生徒側の問題。中学生のキャリア体験としては、直接就職先に該当しないので次年度は敢えて受け入れはしないこととする。	継続	10人
							開催数		3回			9回
							開催経費					
							収入					

【基本方針4】施設の整備・有効活用による文化芸術環境の整備（施策の方向Ⅰ 施設の管理と機能の発揮、Ⅱ 施設の保存と有効活用）												
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン	事業目的		R7計画時	R7実績	R7目的達成度、課題など	めざす姿	R8計画時
19		蓑虫庵管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		4-Ⅰ 4-Ⅱ	芭蕉翁ゆかりの蓑虫庵を保存・管理し、一般の参観に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数	2,500人	2544人		継続	
							開催数					
							開催経費	6,674,000	6,116,840			
							収入	6,466,000	6,653,270			
20		蓑虫庵講座	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	芭蕉の弟子服部土芳の庵管理の一環として、毎年春分の日に土芳や芭蕉について、学芸員が講演を行い、春めいた蓑虫庵参観のを促す。	参加者数	30人	17人	講演会には会場が狭隘。	継続	
							開催数					
							開催経費	20,000	1,000			
							収入	1,000	900			
21		蓑虫庵でお茶を一服	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	蓑虫庵参観促進を行い、土芳の芭蕉顕彰の功績を啓める。	参加者数	150人	87人	来訪者の90%の方が呈茶を希望された。臨時営業許可を得ることができる施設整備ができたため、今後の実施を検討する。	継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	100,000	103,280			
							収入	50,000	31,900			
22		史跡芭蕉翁生家管理事業	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		4-Ⅰ 4-Ⅱ	俳聖松尾芭蕉ゆかりの史跡芭蕉翁生家を保存・管理し、一般の観覧に供することによって市民文化の向上及び文化の振興を図るとともに、地域の振興に資する	参加者数	4,000人	3,759人		継続	
							開催数					
							開催経費	5,917,000	5,663,556			
							収入	5,449,000	5,700,950			
23		天守閣復興90周年記念事業講演会・シンポジウム開催と記録集作成 天守閣上棟式・竣工の写真展示		三重大学他	4-Ⅱ 5-Ⅰ	木造天守閣の建築史的評価及び保存維持のための課題を考える機会とする。	参加者数	100	100	天守閣復興90周年記念事業として初期の目標を達成できたと評価している。竣工記念祭では、舞楽と邦楽の演奏を実施、90歳以上の希望者を招待し100歳を筆頭に9名の参加を得た	単年度事業	
							開催数	約100万円	約120万円			
							開催経費	50,000	50,000			
							収入					
24		大天守閣でのイベント(お琴の演奏、親子クイズ)	公益財団法人 伊賀文化産業協会	若富紫会	4-Ⅱ 5-Ⅰ 7-Ⅱ	天守閣という独特のロケーションの中でお琴の演奏を楽しみ、ひととき超俗の雰囲気を楽しんでいただく会。誰もが知っているお城の知識からちょっと難しい問題まで、クイズに答えてお城の“はかせちゃん”になってもらう。	参加者数		80人	その時の登閣者を対象にしているため、参加者数は予測できない。が、参加者には楽しいひとときを味わって貰っている。通常の登閣チケットを購入していただいているがこの事業に対する収入は0。	継続	100人
							開催数		2回			2回
							開催経費		30,000			20,000
							収入		0			1,000

【基本方針5】歴史と風土が育む文化芸術の継承と新たな文化芸術の創造（施策の方向Ⅰ 郷土が育んできた歴史・文化の再評価、Ⅱ 新しい文化芸術の創造）												
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン	事業目的		R7計画時	R7実績	R7目的達成度、課題など	めざす姿	R8計画時
25		芭蕉祭	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-Ⅰ	芭蕉翁が元禄7年(1694)10月12日、51歳で亡くなった翌年から毎年開催し、翁を偲ぶ。	参加者数				継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	7,559,000	7,200,000			
							収入	7,253,000	7,200,000			
26		芭蕉祭 月見の献立歓迎会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		5-Ⅰ	復元研究した「月見の献立再現の会」により調理され、世に広め後世へ伝えていく。	参加者数	30人	30人	30食限定のため、市民が知る機会が少ない	継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	130000円	98450円			
							収入					

令和7年度伊賀市文化振興プラン 事業カード提出一覧(公益財団法人芭蕉翁顕彰会、前田教育会、伊賀文化産業協会)

(令和8年7月現在)

27		芭蕉祭 全国俳句大会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市		1-Ⅰ 1-Ⅱ 5-Ⅰ	芭蕉祭式典終了後、参列者が俳句大会で芭蕉翁を偲ぶ。	参加者数	80人	71人		継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	350,000	201,000			
							収入					
28		しぐれ忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会・伊賀市 山出地区「しぐれ忌協賛実行委員会」		5-Ⅰ	芭蕉祭を新暦で実施しているのに対し、旧伊賀町の芭蕉翁顕彰会が旧暦の命日に芭蕉翁を偲び実施していた。市町村合併、顕彰会合併を経て、当日の運営を地元山出地区「しぐれ忌協賛実行委員会」に委託し、翁を偲ぶ。	参加者数	100人	100人		継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	300,000	315,000			
							収入					
29		土芳忌	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-Ⅰ	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数	30人	20人	参加を促すには。土芳を偲ぶ意義を、わかり易く伝えることが必要。	継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	20,000	22,754			
							収入					
30		土芳忌追善の講話	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		5-Ⅰ	芭蕉翁の句や教えをまとめ後世へ伝えた芭蕉の弟子、伊賀蕉門の中心であった服部土芳のを称え、偲ぶ。	参加者数	50人	25人		継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	5,000	4,334			
							収入					
31		土芳を偲ぶ俳句会	公益財団法人 芭蕉翁顕彰会		1-Ⅰ 5-Ⅰ	芭蕉の弟子、服部土芳の命日に俳句会を行い土芳を偲ぶ。	参加者数	50人	22人	土芳を偲ぶ俳句会であるため、当日の法要の様子を詠んだ句が多く、法要に参列しない人は参加しにくい。	継続	
							開催数	1回	1回			
							開催経費	60,000	43,800			
							収入					
32		天守閣での歴史的資料の展示及び説明パネルの展示	公益財団法人 伊賀文化産業協会			上野城、藤堂藩に関する史料を常設展示し、毎年、テーマを決めて企画展示も継続している。	参加者数		77,000	興味関心を持って説明を読む方とさっと通過される方との違いがあるが、なるべく親しみやすい展示と説明に工夫している。英中韓の3言語の説明板も付けている。しかし、近年の規模の大きい資料館のような電子化した展示には近づくことが将来の課題である。	継続	
							開催数					
							開催経費					
							収入					

【基本方針7】文化芸術を通した社会的課題への取り組み（施策の方向Ⅰ 社会参加のきっかけづくり、Ⅱ 協働の場の創造）												
No.	新	事業名	事業の実施主体	協力・連携先	プラン	事業目的		R7計画時	R7実績	R7目的達成度、課題など	めざす姿	R8計画時
33		蕉門キネマゼミ	公益財団法人 前田教育会	伊賀市社会福祉協議 会(共催)	7-I	生活課題を踏まえた、話題作を上映予定	参加者数	300人	224人	「テーマ」により身近に入る人、また自身についても考える 機会になった。	継続	400人
							開催数	1回	1回			1回
							開催経費					
							収入					